

委員による二次評価まとめ（平成27年度）

I 美術を通じた交流を促進する			【集客・交流推進】		
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。			[広報]		
達成目標	・年間観覧者数 100,000人以上	(26年度)	1次評価	2次評価	
		S	S		
小林委員長	S	・平成24年度より年間観覧者数が増加傾向にあることは、スタッフの努力による。			
菊池委員	S				
柏木委員	S	・ここ三カ年の実績に鑑み、目標数値を再考してもよいのではないのでしょうか？			
樺澤委員	S				
河原委員	S				
木下委員	S				
草川委員	S	・年々観覧者数が増加しており、27年度は大幅に目標をクリアしている。従事している方々の努力の賜物だと思います。			
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。 	(26年度)	1次評価	2次評価	
		A	A		
小林委員長	A				
菊池委員	A				
柏木委員	A	・「浮世絵にみるモダン 横須賀&神奈川」展は、著しく目標入館者数を下回っていますが、来館者の満足度は高いようです。広報戦略に課題があったのでしょうか？			
樺澤委員	A				
河原委員	A	・県内他市の方と話した際、「横須賀のどこに美術館があるのですか」と聞かれた。この環境のよいところにある素敵な美術館をさらに広報していただきたい。			
木下委員	A				
草川委員	A	・更なる情報発信を行い、認知度・イメージアップにつなげていただきたい。			

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。 〔市民協働〕

達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,000人 (事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)	(26年度)	1次評価	2次評価
		B	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A			
樺澤委員	A			
河原委員	A			
木下委員	A			
草川委員	A			

実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	(26年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	S	・ボランティア活動の評価の要点は、参加者数よりも、個々のボランティアがモチベーションを持って取り組んでいけるような工夫がなされているか否かにあると思いますので、その意味ではSでよいと思います。		
樺澤委員	A			
河原委員	A			
木下委員	A	・市民ボランティアが活発に活動できたのは、美術館側担当者による下支えが大きいと思う。		
草川委員	A			

II 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

〔展覧会・教育普及〕

達成目標	・企画展の満足度 80%以上	(26年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	S	・来館者総数の1%強のアンケートに基づく数値結果ではありませんが、出品作品に対する満足度もすべて高い数値を示しており、「利用者の知的欲求」は高水準で満たされていると評価します。		
樺澤委員	A			
河原委員	A			
木下委員	A			
草川委員	A	・美術館にとって、企画展は波及効果が高く、力を入れるべき事業であると言われていますが、素人の私でも同感であり、集客力のある企画を今後も期待しております。ウルトラマンは昔を思い出し大変楽しかったです。		

実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・所蔵図書資料を充実させる。 ・利用する人が快適に過ごせるよう、図書室の環境を整える。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	(26年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	S	・展覧会の内容もバランスが取れており、関連事業にもしっかり取り組んでいると思います。		
樺澤委員	A			
河原委員	A	・5つの企画展を鑑賞させていただいた。大人や子ども、親子など様々な世代が興味を持つことができ、みな楽しい企画だった。		
木下委員	A			
草川委員	A			

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。 〔若年層への教育普及〕

達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	(26年度)	1次評価	2次評価
		S	A	
小林委員長	S	・平成26年度の観覧者数からみると減少しているが、それは幼児の数字であって、児童生徒については増加している。この点をもっと評価してもよいのではないのか。特に幼児に関しては「近い」ということが観覧の条件になるので、周辺の幼児数の増減も関係する。その辺については・・・一つの考え方の問題提起として。		
菊池委員	A			
柏木委員	S			
樺澤委員	A			
河原委員	A	・児童生徒造形作品展を美術館で開催していただくことにより、子どもたちも数多く訪れ美術館を身近に感じることができ感謝している。		
木下委員	A			
草川委員	A			

実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 ・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。鑑賞会と連動した教材「アートカード」の一層の活用促進を教員と協力しながら行う。	(26年度)	1次評価	2次評価
		S	A	
小林委員長	S	・一次評価の理由等の内容を見ると、実施目標を十分に達成し、美術館と学校との連携が良い意味で相互作用しているように読み取れる。		
菊池委員	A			
柏木委員	S	・造形活動支援も鑑賞教育もメニューが豊富で、PDCAによる自己分析がしっかりできているように思います。		
樺澤委員	A			
河原委員	A	・アートカードの活用と6年児童の鑑賞会をつなぎ、子どもたちは本物の美術作品をみることに興味を持ち、とても楽しみにしている。		
木下委員	B	・小学生は学校単位の美術観賞会で、中学生は夏休みの課題として、美術館に来る事になる。それらは美術館を知る良いきっかけとなり大変望ましいが、自主的に行ってみたいと来館する小中学生の数が果たして多いのか多少疑問が残る。その先の高校生の来館者へと繋がっていかねばならないと思うので。		
草川委員	A			

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。		〔収集管理〕		
達成目標		(26年度)	1次評価	2次評価
	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・所蔵作品管理、作品収集に関する美術館としての取組みは過不足ないと思われます。		
樺澤委員	A			
河原委員	A			
木下委員	A			
草川委員	A			
実施目標		(26年度)	1次評価	2次評価
	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	C	C	
小林委員長	C			
菊池委員	C			
柏木委員	C	・作品購入費の財源確保については、まずは美術館の設置者で所蔵品の所有者である横須賀市の政策判断になると思いますので、2次評価はFとすべき側面もあると考えます。 ・美術品の購入が途絶えると、優れた美術品の情報が集まらなくなり、将来的な美術館活動に影響する懸念が強くなります。受贈にあたっては作品を厳選する必要があります。 ・これらを総合的に評価してCとしました。		
樺澤委員	B	・一次評価が示すように、寄贈品の受け入れに際しては“何でも受贈”ではなく、本美術館の個性にマッチする選択が必要と思います。		
河原委員	C	・作品収集にあたって、予算面の厳しさをご苦労を感じる。		
木下委員	C			
草川委員	C	・作品購入費が厳しい中での活動は難しいと思いますが、その中での最善の活動や少しでも予算が取れるようお願いいたします。		

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[メンテナンス・来館者サービス]

達成目標	・館内アメニティ満足度 90%以上 ・スタッフ対応の満足度 80%以上	(26年度)	1次評価	2次評価
		B	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	S	・いずれも数値的に高水準にあると評価します。		
樺澤委員	A			
河原委員	A			
木下委員	A			
草川委員	A	・館内アメニティー満足度が初の目標達成、スタッフ対応は大幅な目標達成と、S評価でも良いかと思う部分もあります。年々評価が上がっていることは、観覧者にとっては一番良いことでは。		

実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・受託事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	(26年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A			
樺澤委員	A			
河原委員	A	・ミュージアムショップに置かれている品も企画展と連動し、作品鑑賞後に多くの来館者が足を止めていた。		
木下委員	A			
草川委員	A			

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。 〔バリアフリー〕

達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ400人以上	(26年度)	1次評価	2次評価
		S	B	
小林委員長	B			
菊池委員	B			
柏木委員	B	・実施事業に鑑み、目標数値が適切であったか、検討すべきと考えます。		
樺澤委員	B			
河原委員	B			
木下委員	B			
草川委員	B	・減少要因が明確であることと、従来に比べて福祉的な活動として定義づけられたと考えられているのであれば、達成目標の見直しをした方が良いのではないのでしょうか。		

実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくりの)ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。	(26年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A			
樺澤委員	A			
河原委員	A			
木下委員	A			
草川委員	A			

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 [経営的視点]

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値以下とする。	(26年度)	1次評価	2次評価
		B	B	
小林委員長	A	・達成目標を直近3年間の平均値以下ということも目標の一つになるが、今後は、観覧者増、レストラン利用者増と水道使用量問題を考慮することも必要であるように思う。		
菊池委員	A			
柏木委員	B	・目標値をわずかに達成できなかった項目については適切に分析されています。		
樺澤委員	A	・水道使用量の増が観覧者増に起因するのであれば、必要経費ではないでしょうか。		
河原委員	B			
木下委員	B			
草川委員	B	・レジャー施設なども同じことが言えますが、来館客数の増減、天候、その他外的要因で大きく変動してしまいます。それを、従事者が色々と施策を打ち、削減していかなければならないのは大変だと思います。		

実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	(26年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・経費削減は厳しく求められるべきですが、必要な調査出張等が、圧縮されないよう留意してください。		
樺澤委員	A			
河原委員	A	・電気・水道・事務費等ほぼ毎年近い使用量なのは、運営上必要量と思うが、引き続き減らすよう意識し、努力されていることは続けていただきたい。		
木下委員	A			
草川委員	A			